

るんるん

(ルンビニ園広報)

発行者 児童養護施設ルンビニ園 広報委員

平成27年9月1日 第41号

園長のつぶやき

9月に入り、秋の夜長を楽しむ季節となりました。秋の虫の音が聞こえてきましたり、お祭りのお囃子が聞こえてきたりと、なんとも言えぬ情緒を醸し出してまいります。

ルンビニ園の子ども達も、4月から見ますとずいぶん成長してまいりました。とりわけ、中学生となり思春期に入りました子ども達にとりましては、心の葛藤が生まれてまいりまして、大人達を悩ませてまいります。私達も分かってはいても、ついつい嫌な言葉を投げかけてしまうこともあるのです。

今年の春先の職員会議で、ある職員が子どもへの対応につきまして質問を投げかけてきたことがありました。何人かの職員から意見があった中で、ある職員からこんな発言がありました。「私たちは、知らず知らずのうちに子どもを被害者にして、加害者にしてしている。」というものでした。この言葉に、背中を突き飛ばされたような思いをしました。私たちの日々は、何気ない暮らしの中にあり、普通にやっていると思いついでいることが、実は真逆の行動をとっている場合があるかもしれないのです。仏教書の「歎異抄」という中に「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」との一節があります。最近、テレビ等のニュースで、様々なむごい事件を見たり聞いたりすることがあります。「自分は間違ってもそのようなことはしない」と思っている人が大半ではないのかと思います。が、果たしてそう言い切れるのでしょうか。私たちは、条件を整えばどんな悪事でもやってしまう身であることを自覚しなければならないのです。そうすることで、相手を切り捨てるのではなく、思い至る心が智慧となって生じてくるのかもしれないかもしれません。

先ごろ、富山市歯科医師会長の宮本宣良先生とお話をする機会を得ました。世間話をした後、先生のお父上のお話になりました。お父上は昭和18年の学徒出陣で南方に派兵されたそうです。そこで、実に理不尽なことを経験されたのだそうです。学徒兵ということで、上官や目上の兵からの暴虐があったのだそうです。意に反して敵を殺し、同じ日本兵からしごきを受ける、「その辛さは経験したものでないと理解できない」と、おっしゃっておられたそうです。

華嚴経に、「人身受け難し、今既に受く」との一節があります。これは、人間として生まれしことを、喜び讃えている言葉なのですが。今の時代、果たして喜びと感ずる人が存在するのでしょうか。また、我が園の子ども達に、どのように伝えていけばいいのか。そんなことを、夜長をとおして考えているところです。

初代 “谷口節道園長、御命日

5月1日は、初代ルンビニ園園長故谷口節道氏の御命日です。本年もこの日、恒田理事長を導師に御命日の法要が執り行われました。理事長から集会室（本堂）に集った子どもたちや職員に対しまして、初代園長の願いを伝えて下さいました。

谷口園長は、昭和61年5月1日に御遷化されました。84歳の生涯を閉じられたのですが、戦前戦後と激動の時代を乗り越えてこられ、園運営もようやく軌道に乗り、また、強く望んでおられた新体育館の完成にこぎつけたのでございました。波乱の人生の中で、ルンビニ園児に“人独りの尊さ”を教えてこられたその信念を、ルンビニ園がある限り伝えていかなければならないと感じたのでした。

はなまつり

お釈迦様の母マーヤ様が夢を見ました。夜、部屋で眠っておりますと、空から真っ白な象が雲に乗って降りて来て、その象はマーヤ様のおなかの右わきからからだの中に入っていました。しばらくするとマーヤ様は懐妊したのです。そして間もなく、ルンビニの花園で赤ちゃんは生まれたのです。赤ちゃんが生まれると、空から甘い雨が降ってきて、赤ちゃんを綺麗に洗ったのでした。赤ちゃんは、元気な声で「天にも地にもわれ一人」と、言ったのでした。こうしてお釈迦様はお生まれになられたのです。と、恒田理事長からお話がありました。



5月8日、ルンビニ園では「はなまつり」の法要が行われました。ルンビニ園の集会室（本堂）には、小さな子ども達から大きな子ども達が集まり、全員でお経をあげました。恒田理事長より、「はなまつり」の由来について、お話がありました。そののち、お生まれしお釈迦様の像に、一人一人の手で「甘茶」をかけて、

お釈迦様のお誕生をお祝いしました。

田植え

今年も「富山ライオンズクラブ」のご配慮により、ルンビニ園の子ども達とライオンズクラブの皆さまによる「田植えの集い」が行われました。

小雨交じりではありましたが、さわやかな風が心地よく吹く6月6日（土）、タイワ精機試験田において、恒例のライオンズクラブの皆さんとルンビニ園の子ども達（約20名）が「みどり米」の田植えを行いました。左手に苗を持ち右手で苗を植え、ぬかるんだ田んぼに足を取られながらも、一生懸命に田植えをしている子ども達一人一人の姿が輝いて見えました。また、試験田を見ておりますと、一面が植えたばかりの苗色に染まり、その景色に命の躍動を感じました。

田植えが終わり、タイワ精機の集会室において、有機農法の研究に取り組んでおられる職員の方よりお話がありました。「無農薬や有機農法によって、昔よくみられた虫や鳥たちがようやく戻ってきてくれたことが嬉しい」と説明されたことが印象的でした。最後に、ルンビニ園代表の児童から感謝のあいさつがあり、「田植えの集い」は無事に終了しました。

納涼祭＝みたままつり＝



ルンビニ園の「納涼祭」は8月7日（木）、ルンビニ園体育館で賑やかに取り行われました。この日は、気温35度を超える猛暑の中ではありましたが、ルンビニ園の子ども達はもちろんのこと、近所の子ども達も参加し、お祭りの気分はとても高まりました。

午後3時に開始された納涼祭は、恒田理事長のあいさつに始まり、まず「御霊

まつり」が行われ、参加者全員でルンビニ園にご縁のあった先人を偲びました。

今年の夏祭りも、いろいろな模擬店が作られ、浴衣を着た子ども達が金魚すくいやゲームに夢中になっていました。また、今年は本格的な「かき氷機」を購入し、本格的な「かき氷」を販売したところ、瞬く間に完売となりました。



折しも 8 月 7 日は、ルンビニ園の七夕の日でもあります。気温上昇の中で、小刻みに揺れる短冊が、暑さの中で頑張っていました。

第 45 回一日里親会

第 45 回魚津市一日里親会は 8 月 22・23 日の両日、魚津市の里親様のご家庭のもとで、ルンビニ園児童 20 名が家族体験を行いました。

22 日の午前中、魚津市役所大会議室において受入式が行われました。10 時 30 分と同時に、会場内から大きな拍手が起こり、子ども達は拍手に導かれ会場内へと入場しました。拍手が鳴りやみシーンとした会場に、ルンビニ園の子ども達か

ら、会場にお集まりいただいた皆様方へ「勇気 100 パーセント」などの合唱が披露されました。受入式は、林会長様のご挨拶により始まり、引き続き魚津市長様の来賓の御挨拶をいただきました。ルンビニ園からは、園長および児童代表からの感謝の挨拶が行われ、そのあと里親様と児童との対面が行われました。その際、飛び入りで魚津市のイメージキャラクター「ミラたん」が駆けつけて下さり、児童一人一人に勇気を授けて下さいました。「ミラたん」のお陰で、会場はとても盛り上がり、終始にぎやかな雰囲気を作り出していただきました。

18組の里親様に引き取られた20名の子ども達は、それぞれが家族の温かさを肌で感じ、うれしいひと時を過ごすことができました。そして翌23日の午後、魚津市水族館正面において一日里親会が終了となりました。お別れの式では、林会長様よりの「お別れの御挨拶」がなされ、園からは児童代表と職員からの謝辞が述べられました。双方の別れの際、里親様の目にも子ども達の目にも、涙が光っておりました。



「魚津市イメージキャラクター「ミラたん」を囲んで」

おわりに

○今年は戦後70年の節目ですが、戦争を考える特集がテレビや新聞等で報道されておりました。ルンビニ園も、その歴史の中で誕生した施設なのでありますが、某テレビ局からの取材があり、戦後孤児に関わる内容につきまして、少しばかり、材料を提供させていただきました。なお、8月13日に放送されたところです。

○ルンビニ園には、昭和38年に建てられた女子棟があります。今は全く使用しておりませんが、あまりにも見苦しくなりましたので、今月以降に解体することとなりました。長い間、女子児童とともにあった棟を解体するのは忍びないのでありますが、いずれは無くなってしまおうという「無常観」を私達に教えてくれているのです。



～解体予定の旧女子棟～

○暑かった夏も、潮が引くように過ぎ去っていきます。過ごしやすい秋も、次第に寒さに代わってまいります。どうか皆様、お身体を大切に!!